磐城時報

福島縣平町紺屋町
編輯發行人　岡田弘成
福島縣平町紺屋町
印刷所　磐城時報社

本日の御婚儀を壽き奉る

秩父宮雍仁親王殿下は、本日を以て松平勢津子姫君と、宮中賢所の大前に於て御婚儀を擧げさせ給はんとす。拜聞する七千余萬の帝國臣民は、本日の黄道吉日に會し、赤誠を捧げて恭しく御盛儀を慶祝し奉らんとするもの、夫豈偶然ならんや。

申すも畏きことながら、我秩父宮殿下は先帝の第二皇子に坐して載ち至尊　陛下の御昆弟に渡らせ給ふ、天資聰明敏賢、夙に文武の道にいそしみ大正十四年五月を以て萬里の波濤を破り、英國に御見學を遊ばすこと三年而して昭和二年二月一日を以て、御歸朝遊ばせらる、此間御研學の余暇を以て、歐洲大陸の風土習俗を御討究あらせられたるは、今更ら申すまでもあるまじ、特に工業生産に御心を傾けられ、而して開物成務に御等閑ならざるは我等國民の齊しく景仰し奉つる所なり。

松平勢津子姫君に於かせられては、現英國大使恒雄氏を父君として、母君は鍋島侯の出なり、姿容豊艶、兼ぬるに賢淑の婦德を以てせらる。況んや父君の官留に從ふて久しく米國華盛頓府の校堂に學び成績常に優席を占めて、校生の模範たりし令名は、教職等の嘆賞措かざる所なり、擇まれて殿下の配と爲り、而して今や殿下と婚儀を擧げさせ給ふ、眞に鳳鳴鸞和の契調と申すべし、蓋し松平家は東北の雄藩にして、其類族は咸な是れ當世の華紳なり、此家にして此淑媛を出す、必らずや琴瑟和し來りて、金枝玉葉の彌や榮くこと謂ふまでもなし、嗚呼斯の如くにして我皇室の御繁榮は勿論、金甌無缺の大統鴻業をして倍倍光輝を放ち、玆に生民を樂しましむるは、豈亦我等臣民の喋說を俟たんや、只我等は本日の御婚儀を拜聞拜知して、國家、皇室の爲めに恭しく御祝壽を捧呈し奉らんとす。　稽首謹白（磐城時報社同人）

奉祝秩父宮御慶事

平町
磐城共濟病院
院長　難波睦
金成通

平町五丁目
東部電力株式會社平營業所
所長　武田精一
古川傳一

平町五丁目
釜屋商店
電話九番・一三九番
山崎登

平町土橋
山崎合名會社
電話一〇番・二七番
山崎與三郎

福島縣植田町
磐城無盡商會
小宅嘉久治
木村清治

磐城炭礦株式會社礦業所
新田目善次郎

工榮商會
佐々木健一郎
中野甲藏

平藝妓屋組合
野崎滿藏

平町南町（電話一七〇番）
大和田耳鼻咽喉科醫院

平町五丁目
山野邊藥局
山野邊東次郎

平製氷株式會社
加納五郎

取次迅速・取引正確
マルトモ柴田書店
平町四丁目【電話二三四番】

平町田町
マルト撞球場
電話四六五番

平町二丁目
なかや洋服店
電話二〇三番

平町田町
平運輸株式會社
電話二番・十七番・三七番

石城郡銀行組合

石城郡第三區小學校長會

平町三丁目
三井吳服店
電話三八番・七五一番

平町二丁目
三井履物店
電話一五六番

平町南町
織田自轉車店
電話五三二番